

氏 名	平 剛典
-----	------

No. 1

視 察 年 月 日	令和 8 年 5 月 11 日 (月)
調 査 事 項	インクルーシブ保育について
視 察 先	愛知県稲沢市
概 要 及 び 所 見	インクルーシブ保育とは… 子ども同士や子どもと保育者との間で生まれるやり取りや気持ちを大事にして、臨機応変に保育者をつくりだしていく。 稲沢市が目指すインクルーシブ保育とは「誰一人取り残さない、優しいまち稲沢」どの子どもが必要な時に支援が受けられるよう保育士の配置を国基準よりも厚くしている。目標は自立すること！卒園した先を見据えた支援を行っている。 「子どもを尊重する保育」ガイドラインを設け、保育士はしっかりと遵守している。①～⑩まであり、例えば④には「保育中は保育士同士の私語を慎み、子どもと向き合う。大きな声は出さず、穏やかに優しく子どもに語りかけ、穏やかな雰囲気のもと子どもと一緒に遊びます」⑤には「保育士の都合で子どもを思うように動かそうとしたり、育て急ぎをしません。声をかけ、子どもが納得して自ら行動するのを待つようにします」のように決して難しいものではなく、無理なく保育が進められており、保育士への負担やストレスになるような事もなく、効率よく保育できているように感じました。 保育園内には、保育士さんならではの知識で作られた、手作り感たっぷりの衝立や椅子やおもちゃなど温かみを感じることができた。 令和 6 年度からは「個別支援保育士」と「サポート保育士」の支援体制をつくり、個につく支援（安全性を確保するための支援）と園全体につく支援（見守り中心・必要性に応じてつく支援）を確立。 保育士ではない、保育支援者を各園に配置し、配膳や掃除や散歩の付き添いなどで活躍していただいている。（バックアップ体制の構築）

氏 名	平 剛典
-----	------

No. 2

視 察 年 月 日	令和 8 年 5 月 12 日 (火)
調 査 事 項	学校給食の取組について
視 察 先	愛知県東郷町
概 要 及 び 所 見	愛知県東郷町は人口約 43,000 人ほどの町である。第三次産業への就業が盛んであり、日南市と比べ数千人ほど少なくはあるが、町でありながら人口の推移が安定し増減があまりないのことに驚きました。名古屋や工場地帯への利便性だとも思われる。 小中学校に通う児童生徒が、クラスメイトと机を囲み、みんなで同じ献立の給食を食べて、楽しい給食の思い出を作ってもらいたい。そんな思いから、「にこにこ給食」を導入し、児童生徒が持っている食物アレルギーの対象食材を一切使わない東郷町オリジナルの給食を開発したそうです。にこにこ給食の日は学期に 3 回行われている。 事例として、牛乳が無くなることによるカルシウム不足を補うために、大豆やシラスなどで補う。麺には地元産の米粉を使い対策に取り組んでいる。 その他にも「小学校入学お祝い給食」「町制 55 周年記念給食」「愛知を食べる学校給食の日」など特別感を出し、地産地消で地元食材を学びながら給食の時間を楽しんでいる。 給食食材を作ってくださる農家さんとの交流会もあり、こんな野菜も作って欲しい！などの要望を栄養士からするなど、前向きに食材収集にも取り組んでいる。 こういった取組が始まったのは、平成 30 年 5 月に就任した前町長の公約「日本一おいしい給食」が元であり、より安全で安心した食材を提供できないかということで、給食に有機農産物を導入することが決定したそうです。令和 5 年にはオーガニックビレッジ宣言を行い、有機農業を推進する目的として、持続可能な農業の実現に期待する。

氏 名	平 剛典
-----	------

No. 3

視 察 年 月 日	令和 8 年 5 月 13 日 (水)
調 査 事 項	いきいき元気推進事業について
視 察 先	愛知県東海市
概 要 及 び 所 見	東海市は現在の人口約 113,000 人の都市であり、臨海部には中部圏最大の鉄鋼基地を抱え、一方では全国有数のふき、洋ランの生産地である。伊勢湾岸自動車道、名古屋港、中部国際空港の整備により陸・海・空の交通要衝として重要な役割を担っている。 「ともにつながり 笑顔と希望あふれるまち とうかい」を目指す。 いきいき元気推進事業の始まりは、東海市の平均寿命が低かったことです。事業の取組の結果、平成 21 年～22 年から比べ男女ともに向上したことが調査により分かっている。 野菜の摂取量を愛知県全体で見たときに、平成 28 年の調査では 1 位の長野県と比べ三分の二ほどの 229 g で最下位だった。因みに宮崎県は 16 位で 292 g です。必要摂取量 350 g には届かず。そこで東海市では新たな方向性として、市民の「健康づくり」と「生きがいづくり」を掲げ、様々な分野からの連携を図り検討することに。 平成 23 年～ いくつかの事業に取り組みはじめ、その中でも「トマト de 健康プロジェクト事業」に着目。東海市は野菜ジュースやケチャップで有名な KAGOME 社が存在することから、そのブランド力を活かしてトマト推しを決めたそうです。「トマト de 健康フェスティバル」の開催で各飲食店舗と連携し、和食や洋食やデザート等、トマト料理をふんだんに打ち出している。平成 26 年に東海市とカゴメ株式会社が協定締結、令和 6 年には協定締結 10 周年を迎えられたそうです。トマトを通して市民一人ひとりの健康づくり及び地域の活性化に資する事業が成り立っている。 日南市でも食と健康で町おこしができないか研究していきたい。

令和 8 年度 文教厚生常任委員会 行政視察報告書

氏 名	黒部俊泰
-----	------

No. 1

視 察 年 月 日	令和 8 年 5 月 11 日 (月)
調 査 事 項	インクルーシブ保育について
視 察 先	愛知県稲沢市
概 要 及 び 所 見	令和 6 年度から障害児保育指定園制度を廃止し、全ての保育園等で受け入れるインクルーシブ保育を目指した発達支援を実施。 支援が必要な児童を、「個」だけでなく園という「環境」で支援する考え方。自分で考え、自分から行動する力や否認知能力を伸ばす「子ども主体の丁寧な保育を推進し、障害の有無に関係なく、皆がのびのびと育つ環境づくりの構築。目標：①誰ひとり取り残さない優しいまち稲沢②質の高い保育を提供③全ての子どもと保育士が楽しいと感じる保育 ※障害の有無や国籍などに関わらず、多様性を認め合う。 令和 7 年度、インクルーシブ保育事業費。1 億 6,518 万 4 千円。 ○稲沢市が行う主な支援体制 1、個の支援 個別支援保育士～支援の必要度が高い子どもの担任。将来的な自立に向けてできることを増やしていく支援。個別支援計画等の作成。 2、園全体の支援 サポート保育士～クラスの中の気になる子を対象に保育する。担任保育士の黒子的な存在。 3、その他の保育士を支える支援 各園に 1 人ずつ保育支援者を配置～配膳や掃除、散歩の付き添い、見守りなど。 所見～公立駅前保育園を現地視察させていただいた。多様性の尊重、共生社会の実現に向けた取組の一環と認識している。持続可能な街づくりの視点からも重要であると改めて認識した。今後、本市での実現に向けた課題等について、調査研究を進める。

令和 8 年度 文教厚生常任委員会 行政視察報告書

氏 名	黒部俊泰
-----	------

No. 2

視 察 年 月 日	令和 8 年 5 月 12 日 (火)						
調 査 事 項	学校給食の取組について						
視 察 先	愛知県東郷町						
概 要 及 び 所 見	オーガニック給食の導入について～平成 30 年「日本一おいしい給食」の実現を前町長が公約に掲げたことがきっかけとなり、その後、おいしいだけでなく、より安全で、安心の食材の提供に取り組むため、給食に有機農産物の導入を検討。 JA あいち尾東の協力を得て、約 100 万円の予算を計上し、令和元年から開始。令和 2 年度からは、自然農法で耕作された米が加わった。 令和 8 年度予算（有機栽培食材分） <table border="0"> <tr> <td>保育園給食事業（約 600 食/日）</td><td>1,772,000 円</td></tr> <tr> <td>小学校給食事業（約 3,000 食/日）</td><td>7,191,000 円</td></tr> <tr> <td>中学校給食事業（約 1500 食/日）</td><td>5,070,000 円</td></tr> </table> 令和 5 年度オーガニックビレッジ宣言を行った。 「東郷町有機農業実施計画」では、持続可能な農業の実現を目的としている。食品ロス削減の観点から、規格外の有機野菜を加工した食材を給食に導入し、日常の中で有機農産物に触れる機会創出を図っている。具体的には、サツマイモのコロッケ、「ニンジン」をペースト状に加工し、「ソース」や「キャロットポタージュ」として提供。有機小松菜、有機たまねぎ、有機かぶなども提供されていた。ごはんは、東郷町産を使用。素材の味を活かすため、丁寧にだしを取り、だしのうま味を生かす調理方法。調味料なども素材の味が活きるものを選定。また、食物アレルギーを持つ子どもが、皆と一緒に食べられるように「にこにこ給食」を実施した。（学校は学期に 3 回、保育園は毎月） ※町 HP における給食情報の提供が充実。 所見～子どもの健やかな育ちを、食事の面からもしっかりサポートしたいとの思いが、伝わってきました。美味しく安全安心な食事は、児童生徒の健康に欠かせない重要テーマである。給食の拡充を深掘りしていく。	保育園給食事業（約 600 食/日）	1,772,000 円	小学校給食事業（約 3,000 食/日）	7,191,000 円	中学校給食事業（約 1500 食/日）	5,070,000 円
保育園給食事業（約 600 食/日）	1,772,000 円						
小学校給食事業（約 3,000 食/日）	7,191,000 円						
中学校給食事業（約 1500 食/日）	5,070,000 円						

氏 名	黒部俊泰
-----	------

No. 3

視 察 年 月 日	令和 8 年 5 月 13 日 (水)
調 査 事 項	いきいき元気推進事業について
視 察 先	愛知県東海市
概 要 及 び 所 見	本事業に取り組む以前、平成 21 年～22 年度の東海市は平均寿命が低く、健康への意識が低めという調査結果であった。また、野菜摂取量も愛知県全体でも少ない傾向があった。そのような課題を解決するため『いきいき元気推進事業』を平成 23 年（2011 年）度から開始した。 - 健康応援情報「運動・食生活応援メニュー」提供 健康診断の結果と生活習慣に関する質問を基に、各人に適した運動を星の数で提示。各人に適した食生活を四つ葉で提示。 - 健康応援ステーション事業 ・運動ステーション（市内 9 施設、有酸素運動と筋力トレーニング設備など）ウォーキングコース整備・食生活ステーション認定（市内 30 店舗、バランスの取れた『いきいき元気メニュー』を提供）・メディカルステーション（医師会、歯科医師会、薬剤師会、3 医師会との事業協定） - 企業との連携事業（事業所の健康評価、健康づくり出前講座、健康応援メニュー提供、いきいき元気キャンペーン事業） - トマト de 健康プロジェクト事業（カゴメと連携協定し健康づくりと地域活性化に資するプロジェクト事業～トマト給食、トマト新聞、トマト給食コンテスト、トマトで健康フェスティバル、トマトジュースのでる蛇口、トマト記念館） 所見～H24 年度と R6 年度の事業効果比較、健康寿命が男性 78.55 歳から 80.45 歳。女性 82.77 歳から 84.64 歳へと改善した。 その他の指標においても健康づくりの成果指標が改善していた。 健康で長生きは、全ての市民の願いである。ライフステージに応じた健康増進事業が求められる。

令和 8 年度 文教厚生常任委員会 行政視察報告書

氏 名	安竹 博
-----	------

No. 1

視 察 年 月 日	令和 8 年 5 月 1 1 日 (月)
調 査 事 項	インクルーシブ保育について
視 察 先	愛知県稲沢市
概 要 及 び 所 見	稲沢市は人口 1 3 万 7 千人。人にやさしいまちづくりを進めておられます。 インクルーシブとは全てを包み込むこと。 そうした社会をつくるためには、幼児期が大切であることから、誰ひとり取り残さない優しいまち稲沢を実現するため、障害の有無に関わらず、すべてのこどもが同じ場で学びあう質の高い保育がなされている。 支援体制も充実していて、個別支援保育士、サポート保育士、保育士を支える体制とし、保育支援者を配置されている。 こどもが主体という考えのもと目標は自立、一人一人のこどもが強みを引き出し、社会参加できる未来の大人を増やす。まさに人づくりの原点にたった、保育がなされていました。

令和 8 年度 文教厚生常任委員会 行政視察報告書

氏 名	安竹 博
-----	------

No. 2

視 察 年 月 日	令和 8 年 5 月 1 2 日 (火)
調 査 事 項	学校給食の取組について
視 察 先	愛知県東郷町
概 要 及 び 所 見	人口 4 万 3 千人強の東郷町。 給食センターは、学校 4 3 3 0 食、保育園 5 3 0 食のセンター方式で運営されている。 特に日本一おいしい給食の実現を掲げ、安全で安心した食材を提供できないかということで有機農産物の導入を始められた。有機農業を推進する目的として、有機農業実施計画、有機農業推進協議会など有機農産物の普及に町全体で取り組んでおられる結果が出ているように思う。 食物アレルギーに対応した「にこにこ給食」にも取り組んでおられ、こども達と一緒に給食をとる喜びもあるとのことでした。

令和 8 年度 文教厚生常任委員会 行政視察報告書

氏 名	安竹 博
-----	------

No. 3

視 察 年 月 日	令和 8 年 5 月 1 3 日 (水)
調 査 事 項	いきいき元気推進事業について
視 察 先	愛知県東海市(しあわせ村)
概 要 及 び 所 見	東海市は 1 1 万 3 千人弱の臨海工業都市である。 「東海しあわせ村」 福祉サービス、健康増進、生きがいつくりの拠点として、様々な施設を有している。 平均寿命が低く、働く世代の健康意識が低いため、いきいき元気推進事業が始まった。健康応援情報・健康応援ステーション事業・企業と連携事業・トマト d e 健康プロジェクト事業などが提供された。事業の取組効果として多くが改善されたとのこと。 近年、また新たな取組も実施されて、「ともにつながり 笑顔と希望あふれるまち とうかい」を目指しておられるようです。

氏 名	中尾貞美
-----	------

No. 1

視 察 年 月 日	令和 8 年 5 月 1 1 日 (月)
調 査 事 項	インクルーシブ保育について
視 察 先	愛知県稲沢市
概 要 及 び 所 見	・ 駅前保育園現地視察 稲沢市子ども健康部等での「インクルーシブ保育」について 駅前保育園では先生が子供達 4 人編成での勉強とかの形態をとられ、それぞれの班での動きを見られ、そのなかでインクルーシブ保育をされていた。 子供達がのびのびと活動していた。見るとケンカとかの動きのトラブルは見られず、保育士さんがうまく子供達を指導されていた。 ・ 稲沢市での「インクルーシブ保育について」では、子どもを尊重する丁寧な保育で「子どもを尊重する保育」ガイドラインを設け、丁寧な保育を行い、子どもも保護者も職員もすべての人を大切にしたい保育を実施しているとありました。その中でインクルーシブを目指した保育ということで「誰一人取り残さない、優しいまち稲沢」を目指して、どの子も目標は自立であることを意識し、卒園した先【将来】を見据えた支援を行っていると感じました。 その中では、子どもの主体性「おもしろそう、やってみたい」を尊重し支える保育というのやられ、からからつみき活動というのやられていた。森林環境譲与税の配分等で財政側から使える方向で指導があり、からからつみき等で国産材を使った森林環境譲与税の活用もしているとありました。

氏 名	中尾貞美
-----	------

No. 2

視 察 年 月 日	令和 8 年 5 月 1 2 日 (火)
調 査 事 項	学校給食の取組について
視 察 先	愛知県東郷町
概 要 及 び 所 見	学校給食の取組について 東郷町給食センター ○アレルギー対応給食として 1. にこにこ給食の実施 ・東郷町独自の給食でにこにこ給食の日は牛乳を除いている。 2. にこにこ給食とは ・令和元年 10 月から食物アレルギーの対象とならない食物で給食を提供している。 3. 導入の経緯では ・食物アレルギーを持つ児童は、配膳の時間は別室で待機し、喫食の時間は先生や食物アレルギーを持つ児童と過ごし、片付けの時間は、また別室で待機するという。アレルギーフリーの安全安心な給食、「にこにこ給食」の開発に取り組みました。 ・食物アレルギー対応委員会を設置、学校における食物アレルギーの事故防止の徹底を図る。 4. 実施日及び献立については ・学校給食では、ごはん、さつまいものみそ汁、照り焼きチキン、切干大根と揚げのおひたし、豆乳ヨーグルト、東郷町産ローゼルジャム ・保育園給食は、ごはん、呉汁、米粉の鶏唐揚げ、切干大根と小松菜のごま和え 5. 食物アレルギーを有する児童生徒の保護者説明会の開催 ・入学前の 12 月に食物アレルギーを有する児童生徒の保護者説明会を開催。 6. 当時の課題

- ・牛乳がなくなることによって栄養価の不足が考えられる。
- ・アレルギー品目の多さ、それに対する献立の制限。

7. その後の展開

- ・小麦アレルギーのある子どもにも、児童生徒に人気の献立である麺類を食べてもらいたいとの思いから、東郷町産米粉を使った給食用の麺の開発を製麺業者と一緒に行いました。

8. にこにこ給食の現状（R 7 年度）

- ・学校 学期に 3 回
保育園 毎月

9. 総括

- ・子供が、みんなと同じ給食を食べたと喜んだ。

今回の視察では、食物アレルギーの対象とならない食材で献立作成ができる限り、子どもたちにとって安全で楽しい給食になるよう工夫したいとありました。

日南市でも食物アレルギーの対象とならない安全で楽しい給食を研究され、児童の健全育成を目指されるように願いたいと思われた。

氏 名	中尾 貞美
-----	-------

No. 3

視 察 年 月 日	令和 8 年 5 月 1 3 日 (水)
調 査 事 項	いきいき元気推進事業について
視 察 先	愛知県東海市
概 要 及 び 所 見	人口 113 千人の市であった。 特定健康診査受診率は女性が高く、男性が受診率が低いとのことで、高齢化が進んでいるようだ。 愛知県民は野菜をとるのに全国最下位とのことで、野菜をとる率をもっと上げていかなければいけないとのことだった。 東海市の課題として、健康意識が低いということで「健康づくり」と「生きがいづくり」を方向性にもっているとのことだった。 平成 23 年度が「いきいき元気推進事業を開始」されていた。 健康応援情報で「運動・食生活応援メニュー」の提供とあった。 運動応援メニューでは、あなたにあった運動を「星の数」で提示。 運動の強さ、ウォーキングのペースと頻度、筋力トレーニング家庭メニューとあった。 食生活ステーションも市内 30 店舗で推奨され、野菜が不足がちとか塩分 3.3 g 以下と提示されていた。 メディカルステーションとして、3 師会の事業協定、企業（事業所）と連携した取組、トマト de 健康プロジェクトとか完成されていた。 また、レシピを事業所等に紹介し、トマト新聞と合わせた事業展開を行っているとありました。 事業の取組の効果(市民)は、健康寿命、健康づくりの取組をしている人の割合、ウォーキングなどの運動に取り組んでいる人の割合等 6 項目中、5 項目が改善とのことだった。 近年の新たな取組として、①あいち健康マイレージ事業の実施②野菜摂取量推定システム(ベジチェック)の活用③健康経営セミナーの実

施④減塩プロジェクトの実施とありました。

日南市でも、これらを具体的に実施し、市民の健康づくりを提案するべきと思われる。

令和8年度 文教厚生常任委員会 行政視察報告書

氏 名	井福 秀子
-----	-------

No. 1

視 察 年 月 日	令和 8 年 5 月 1 1 日 (月)
調 査 事 項	インクルーシブ保育について
視 察 先	愛知県稲沢市
概 要 及 び 所 見	インクルーシブ保育はどういうものか、初めて知りました。 障害の有無にかかわらず、すべての子供が個々に必要な援助を受けながら、みんなが同じ場で学びあう。大変素晴らしい保育です。 私は20年近く、つよし学園の職員として働いていました。目を離すと何をするか、どこに行くか、分からない重度の障害を持つ障害児者もいて大変でしたが、素晴らしい園長先生の元で学び生きがいをもって働いていました。園外にもよく連れていき多くの経験をさせることができました。 稲沢市は、令和6年度から市内の公立・私立全ての保育園等で障害児を受け入れるとともに、障害児に限らず、支援が必要な児童に対し、園という環境全体で支援するインクルーシブ保育を目指した発達支援を実施し、集団生活を送る中で必要な支援を、個々の児童の状況に応じて行うとのこと。場面に応じて支援を受けるサポート児が約8%ということで、どの児童も必要な時に支援が受けられる体制となっている。 児童発達支援事業者は21か所、児童発達支援センターは1か所あるとのこと。

令和 8 年度 文教厚生常任委員会 行政視察報告書

氏 名	井福 秀子
-----	-------

No. 2

視 察 年 月 日	令和 8 年 5 月 1 2 日 (火)
調 査 事 項	学校給食の取組について
視 察 先	愛知県東郷町
概 要 及 び 所 見	オーガニック給食を導入する経緯は、町長が公約として日本一おいしい給食の実現を掲げた。より安全で安心した食材を提供できないかと給食に有機農産物の導入が決定した。給食への納品に至るまで調整を重ね、令和元年から提供が実現した。 令和 8 年度予算（有機栽培食材分）給食事業として、有機食材はすべて公費負担。 保育園（約 600 食）、小学校（約 3000 食）、中学校（約 1500 食）。有機食材の導入により、仕入れ単価は一般の単価と比較してどの程度上昇したのか。 有機小松菜は 2.05 倍。有機ほうれん草は 1.4 倍。有機にんじんは 1.22 倍。 学校給食の有機食材等の使用について、必要な合意形成はどう図られているのか。 1. 有機農業者の支援を図り、来場者に有機農産物の P R を実施。 2. 親子で行う有機野菜作り体験、有機野菜を使った料理教室を開催。 3. 規格外の有機野菜を加工した食材を給食に出して子供達が触れる機会にする。 4. 給食納入者に依頼して規格外のサツマイモをコロケにし提供した事例がある。 5. 食物アレルギーに対応した「にこにこ給食」は児童生徒のアレルギー対象食材をすべて除いている。学校は学期に 3 回、保育園は毎月実施している。にこにこ給食の日は、牛乳を出さないためカルシウムを大豆やシラスなどで補っている。クラスメイトとみ

んなで同じ献立の給食を食べて、楽しい給食の思い出を作ってもらうとともに、食物アレルギーのない児童生徒も食物アレルギーに対する理解を深めてもらう機会として令和元年10月から提供を開始したとのこと。

にこにこ給食は、子供にも大変好評のようで、栄養士や職員の方々が知恵を出し合い、苦労され、より良い給食ができることは大変すばらしく、保護者も感謝されていることと思います。

令和8年度 文教厚生常任委員会 行政視察報告書

氏 名	井福 秀子
-----	-------

No. 3

視 察 年 月 日	令和 8 年 5 月 1 3 日（水）
調 査 事 項	いきいき元気推進事業について
視 察 先	愛知県東海市
概 要 及 び 所 見	東海市がいきいき元気推進事業を始める以前は、男女とも平均寿命が低く、健康意識が低めで、働く世代の 40～50 代、特に男性の受診率が低かった。しかも、超高齢社会で 75 歳以上が 13%にもなっていた。 また、愛知県は野菜摂取量が全国最下位であった。（平成 28 年 1 日の野菜摂取量） 平成 23 年度から、いきいき元気推進事業を開始され、①健康応援情報「運動・食生活応援メニュー」の提供 ②健康応援ステーション事業 ③企業との連携事業 ④トマト de 健康プロジェクト事業など、積極的に市民の健康について具体的な対策を考えられ、市民とともに取り組む姿勢が素晴らしいと思う。 運動施設が市内に 9 施設あり、ウォーキングコースも整備され参加者数も増えている。食生活ステーションに提供数も増えているようだ。 市民が健康で生きがいを持ち、長生きできるよう、自治体が積極的に市民とともに頑張っていることが理解できた。日南市民も見習うところがあると思う。